

保育者の造形表現に関する意識調査

－指導困難に着目して－

山 中 慶 子

The Awareness Survey about Artistic Expressions for the Early Childhood Educator

－Focus on the Difficulty of Guidance－

Keiko YAMANAKA

キーワード：保育者、造形活動、指導困難

1. 研究の背景

平成29年告示『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』では、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10項目が示され、幼児期から学校教育への身につけたい資質・能力が、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に明記された¹⁾。幼児期に育まれる資質・能力は、その後の学校教育の基盤となるだけでなく、豊かな感性や表現の工夫、心豊かな生活を創造していく態度など「生きる力」の基礎と捉えられる。『幼稚園教育要領』には「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と記されている。

幼児期の子どもの育ちを支えるのは、家庭や地域社会・幼児期の教育施設・保育施設である。幼稚園・保育所・認定こども園の保育者には、家庭や地域と連携しながら、幼児の生活全体が豊かなものとなるような幼児期の教育の支援が求められる。

就学前施設で働く保育者の多くは、保育者養成校で保育の基礎知識について学び、子どもの発達や保育の専門知識について学ぶ。領域表現の分野において、学生は講義・演習科目を通して保育者としての専門知識・技術を体得し、保育現場にお

ける音楽活動や身体遊び、造形遊び等、子どもたちの豊かな体験を支えることが求められる。

しかし、佐善（2010）²⁾が保育者養成校で行った調査では4年間の平均値で65.1%の学生が造形に対して苦手意識を持っており、降籬（2016）³⁾の小学校教員養成課程における調査では60%の学生が造形表現に関して苦手意識を持っていることを明らかにしている。

一方、畠山（2018）⁴⁾は、図工・美術に対する感情の変遷を時間軸で表した「感情曲線」の調査において、「感情曲線全体の平均の形状からは、幼少期の高い肯定感が10代半ばにかけて肯定・否定のない状態まで下降するが、大学時に大きな回復を見せ、就職後も肯定感の緩やかな上昇が40歳頃まで続き、その後もその肯定感を維持しながら推移することが明らかになった」とし、大学での授業が感情回復の大きな機会になっていると述べている。

2. 問 題

山中（2020）⁵⁾は、保育学生対象の造形表現アンケート調査により2割の学生が図工・美術に対し「嫌い」「好きではない」感情を抱いており、保育者になった際の造形指導に関して不安を持つ学生が3割いるとの結果を得た。また、保育学生の苦手意識の要因として、①具現化による上手下

手の概念に基づく要因⑥設定課題や授業内容に関する要因⑦他者からの評価や本人のコンプレックスに関する要因の3要因が示された。これらの要因を鑑み、苦手意識を克服できるような授業内容を検討することは保育者養成校での造形授業において必須であると考ええる。

しかし、造形に対して苦手意識を持ったまま保育者となり、造形活動を行ううえで困難を感じている保育者が一定数存在することが、中島(2019)⁶⁾、横田ら(2020)⁷⁾の研究で明らかにされている。

幼児の造形表現には教科書はなく、テーマの設定や活動の計画、使用する用具や材料の選択は多くの場合クラス担任に任される。造形活動における保育者の役割は、子どもの興味関心に基づく体験の連続性と、適切な「ねらい」によって環境が構成され、子どもが環境に関わり経験することを援助することである。よって、保育者にはさまざまな造形の知識と、発達にあった保育を計画し環境を整える技術、活動の発展を見通す力が求められる。幼児の造形は、描画・工作・平面構成・粘土・折り紙・技法遊び・感触遊びなど多岐にわたる。また、幼児造形の用具や材料は子どもたちにとって初めて手にするものも多く、扱い方や注意事項など基本的な使い方の指導を行うことも就学前教育を担う保育者の役割である。

小学校教育とは異なり、教科書や活動内容が設定されていない幼児教育では、保育者が幼児の育ちや興味関心に沿った活動を設定できる反面、担任の経験値や嗜好が反映されやすいといった面を持ち合わせていると考えられる。保育者の造形に対する苦手意識は、活動の指導困難に繋がり、苦手な活動自体に消極的になるなど幼児の体験の幅を狭めてしまう危険性があると推察される。

3. 先行研究

幼児の造形教育を指導するにあたって、保育者がどのような課題を抱えているのかについて、横田ら(2020)⁷⁾は、若手保育者が抱える造形活動に対する課題について調査を行い、課題の多くは「造形に関する知識・技能」と「子どもとの関わり

り」に関するものであるとの結果を得た。項目は「レパートリーの量」「苦手意識を持つ子・嫌がる子への対応」「絵画制作に関する手順・方法」となっており、保育者になり現場に出たからこそ出現した悩みであることがうかがえる。

また、島田(2016)⁸⁾は、造形活動に関する保育者と学生の意識を比較し「学生に比べて、保育者の方が造形活動に対する『苦手意識』『嫌い』といった傾向が強いが、それが既存の題材やアイデアを応用することに繋がっている」とし、保育者の造形活動に対するマイナス意識はあるものの、既存の題材の工夫につなげながら保育を行う専門性について述べている。

村田ら(2010)⁹⁾は、保育現場での造形指導の現状として2つの極端な例を挙げている。1つは、活動の材料と場を与えるだけで保育者による基本的な指導が全くされず、子どもにまかせきりの例(子どもの自由を絶対視する立場)であり、もう1つは、保育者によって表現の到達目標が設定され、そこに向かう方法も過程もあらかじめ定められた造形指導(規範重視型の立場)であるという。また、保育者の立ち位置として「指導によって保育者の願いがかなえられ、援助によって子どもの思いも十分に発揮される造形表現を目指すために、保育者は資質を高め、高度な専門性を身につけるようにしなければならない」と述べている。

4. 目 的

本稿では、保育者が幼児の造形活動において困難だと感じる内容、またはその要因について調査することで、保育者の造形活動に関する指導困難事項を明らかにすることを目的とする。

また、保育者自身の造形に対する苦手意識が、幼児の活動に及ぼす影響について考察する。

5. 研究方法

- 1) 対象：幼稚園1園／保育所2園／認定こども園1園に勤務する保育者 計62名
- 2) 方法：質問紙調査法(資料1)
- 3) 調査内容
 - ①自身の造形に関する意識

『小さい頃から、図工・美術は好きか』

『現在、自身の造形に関する仕事は好きか』

② 幼児の造形活動に関する意識

『幼児の造形活動を計画することは好きか』

③ 幼児の造形活動計画・内容について

『幼児の造形で計画しやすい活動』

『幼児の造形で計画することが難しい活動』

『幼児の造形活動計画で気をつけている点』

④ 造形指導で困難だと感じること

『現在、造形活動を計画・指導するうえで困難だと感じることはあるか。また、その要因は何だと思うか』

⑤ 学生の時に身につけておきたかったと思うスキルについて

『学生時代に、造形表現について身につけておきたかったと思うこと』

研究の意図を園長先生に説明し、同意を得られた園に無記名の質問紙用紙を配布した。約2週間後に回収にうかがい、回答のあった62名を調査対象とした。

6. 調査結果

6-1. ①自身の造形に関する意識

『小さいころから、図工・美術は好きであったか』の問に対して5段階で回答を記すようにした。「大好き」21% (13名)、「まあまあ好き」26% (16名)、「普通」22% (14名)、「好きではない」21% (13名)、「嫌い」10% (6名)の回答を得た。「大好き」「まあまあ好き」を合計すると、47% (29名)の保育者が、小さい頃から図工・美術に対して好意的な感情を持っている。反対に、「嫌い」「好きではない」は31% (19名)であった(図1)。

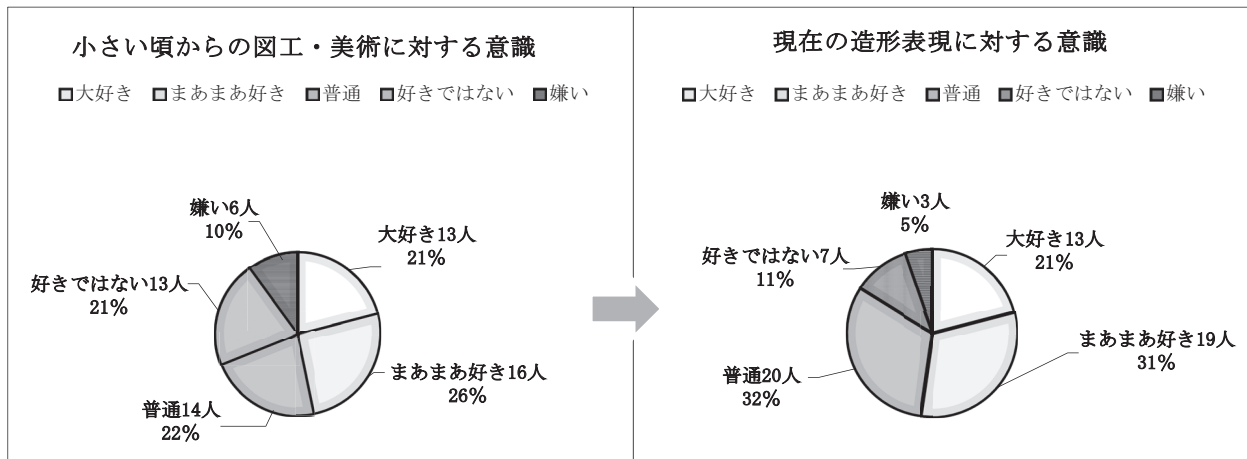


図1. 自身の造形表現に対する意識

表1. 幼児の造形活動に対する意識の理由

- 「大好き・まあまあ好き」の回答理由—
- ・子どもの発想は面白く、大人には真似できない。面白く、学ぶものがある。
 - ・年齢に合わせて準備することは大変だが、子どもたちの様々な発想を見ることができるのは楽しみ。
 - ・子どもにしか出来ない表現を引き出したり、子どもの喜ぶ顔を見ることができるから。
 - ・子どもが楽しんで活動できるよう計画していくのが楽しい。
- 「普通・好きではない・嫌い」の回答理由—
- ・自分は製作が大好きだが、子どもの造形活動は自分がさせたいだけではなく、発達も踏まえながら計画しないといけないところが難しい。
 - ・専門的な知識があれば計画も立てやすいと思うが、実際は難しい。
 - ・苦手なのでアイデアが浮かばない。

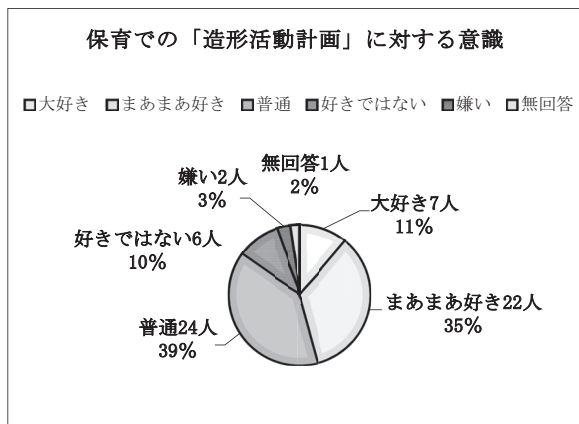


図2. 幼児の造形活動に対する意識

『現在、自身の造形に関する作業は好きか』の問に対しては、「大好き」21%（13名）、「まあまあ好き」31%（19名）、「普通」32%（20名）、「好きではない」11%（7名）、「嫌い」5%（3名）の回答を得た（図1）。

6-2. ②幼児の造形活動に関する意識

『幼児の造形活動を計画することは好きか』の問に対しては、「大好き」11%（7名）、「まあまあ好き」35%（22名）、「普通」39%（24名）、「好きではない」10%（6名）、「嫌い」3%（2名）、無回答2%（1名）の結果となった（図2）。

現在の自身の造形に関する意識と比べると、「大好き」の数は21%（13名）から11%（7名）に減少し、「嫌い」「好きではない」はほとんど変わらず、「まあまあ好き」「普通」が74%（46名）を占める割合となった。自由記述欄に記載のあった理

由について表1に示す（表1）。

6-3. ③幼児の造形計画・内容

幼児造形で扱われる素材や実践を例に挙げ、『幼児の活動として計画しやすいものに○を、計画することが難しいものに△をつける』ことを示した。複数回答可とした。

幼児の造形活動で計画しやすいものとしては、「クレヨン・クレパスでの描画」（48名）が最も多く、次いで「廃材での工作」（34名）「切り絵・貼り絵」（32名）「絵具での描画」（29名）「シール貼り」（28名）「折り紙」（28名）「マーカーでの描画」（24名）「スタンプあそび」（24名）「油粘土あそび」（22名）「感触あそび」（22名）という結果となった（図3）。

幼児の造形活動で計画することが難しいものとしては、「土粘土」（13名）「光の造形」（12名）「動

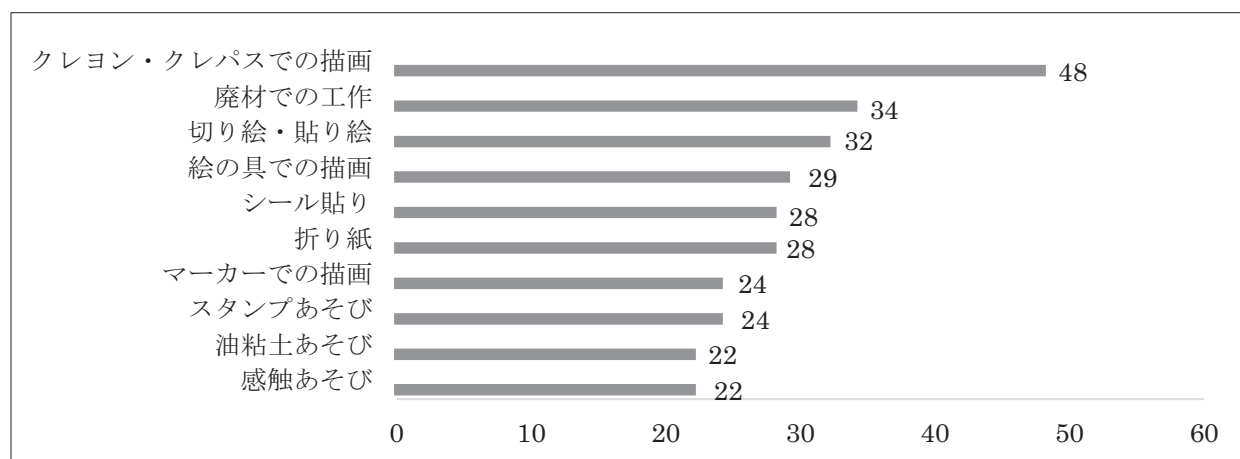


図3. 取り組みやすい造形活動の種類

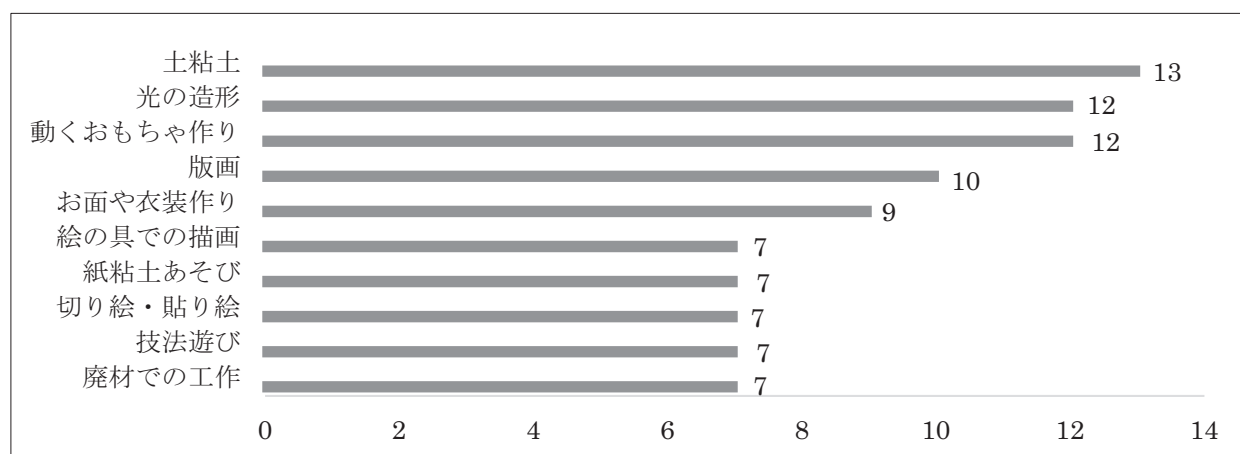


図4. 取り組むことが難しい造形活動の種類

くおもちゃ作り」(12名)「版画」(10名)「お面や衣装づくり」(9名)「絵具での描画」(7名)「紙粘土遊び」(7名)「切り絵・貼り絵」(7名)「技法遊び」(7名)「廃材での工作」(7人)という結果となった(図4)。

幼児の造形活動として取り組むことが難しい理由を、自由記述から要因ごとに区分する。

④自身の体験不足や知識不足

- ・土粘土や光の造形は自分自身の知識が少ないから。

⑤保育時間や園環境の問題

- ・準備片付けに時間がかかるものは、通常の保育の中では無理。
- ・遊びこめるような時間がない。

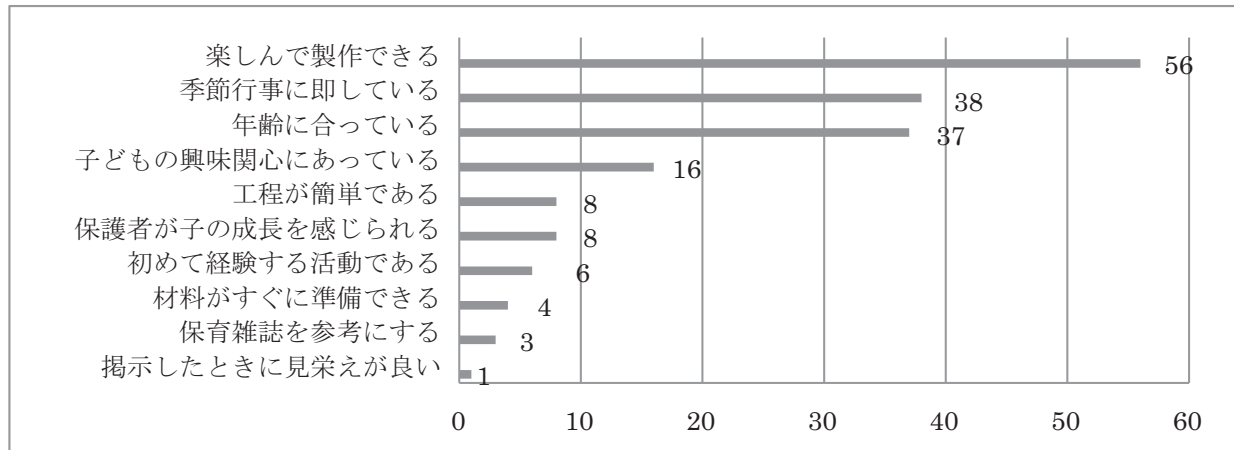


図5. 造形活動計画で考慮している点

表2. 造形活動で困難だと感じる事項

カテゴリー	記述内容
発達差や個人差による要因 (6名)	・同年齢でも発達に大きな差があり、援助を必要とする子どもへの対応が難しい。 ・同じ年齢でも出来る子、苦手な子に差があるため、同じ活動をするのが難しい。 ・配慮が必要な子への興味の持たせ方。 ・絵具・はさみなどの一斉指導の場面において、発達差や経験差が大きく難しい。 ・預かり保育などの縦割り保育において、様々な年齢の子どもに同じ活動を行う時に苦勞する。 ・一斉保育を行う際、道具を使ったことが無いなどの経験の差や理解力によって個人差が出る。
活動内容や指導法に関する要因 (4名)	・絵画指導において難しさを感じている。子どもたちがどこまで描くことができるのかを考える必要があるため。 ・絵具を用いて人の絵などを描くこと。どのように進めれば良いのか、一人一人に伝えることが難しい。 ・絵具の一斉指導の際、水や絵の具を使うので、準備片付けの指示が難しい。 ・一斉に取り組むことが難しい活動は困難だと感じる。
自身の保育技術による要因 (5名)	・全くアイデアが浮かばず、楽しい活動ができない。材料だけでなく、子どもの動線を考えた造形活動を考える力がまだ足りないと感じる。 ・何をどう子どもに教えればよいのか分からず、なぜその活動が必要なのかも理解できないまま、ただやるだけになってしまう。指導力がなければ、先生にとって困難だと感じる活動になってしまう。 ・年を重ねるたびにアイデアが浮かばなくなる。 ・0～2歳児では、シール貼りやクレヨン、のりなど簡単な素材や道具を選んでしまい、ステップアップが出来ていないように感じている。 ・年齢に応じた活動を計画し、子どもの能力を活かすことができているのか分からない。
保育環境による要因 (6名)	・汚れることを嫌う園や保護者がいて、思い切り楽しむことができない。 ・手が汚れることを嫌がる子が多い。経験不足の親の影響があるのかもしれない。 ・時間が限られているため、ゆっくりと造形活動に取り組めない。行事や日々のすべきことに追われ、やりたい活動ができていない。 ・他の業務に時間がとられるため、事前準備の大変なもの出来ない。 ・子どもたちに造形活動を十分にさせてあげられる環境や、準備が大変だと感じる。 ・材料費が決まっているため、自由な活動が難しい。

◎素材や用具の扱い方が難しい

- ・製作にスピードが必要な紙粘土は難しい。
- ・絵具を使用する際に、筆やパレットの状態を考えて指導することが難しい。

⑩保育者自身の好み

- ・折り紙は自分が苦手だから避けてしまう。

『幼児の造形活動計画で気をつけていること』については、上位3つまでの選択とした。「楽しんで製作できる」(56名)「季節行事に即している」(38名)「年齢に合っている」(37名)が調査人数の半数を超える結果となった(図5)。

質問事項②において幼児の造形活動を計画することに対して「好きではない」「嫌い」と回答した保育者8名のうち7名が「工程が簡単である」を選択する結果となった。

6-4. ④造形指導で困難だと感じる事項

『現在、造形活動を計画・指導するうえで困難だと感じることはあるか。また、その要因は何だと思うか』の問には、自由記述で回答を得た。造形活動が「まあまあ好き」「普通」と答えた保育者の中にも記述が見られた。記述があった回答から、「発達差や個人差による要因」「活動内容や指導法による要因」「自身の保育技術による要因」

「保育環境による要因」の4つのカテゴリーに区分した(表2)。

6-5. ⑤学生時に身につけておきたかったスキル

『学生時代に、造形表現について身につけておきたかったと思うことはあるか』の問には、自由記述で回答を得た。「自身の造形技術に関して」「保育技術や指導力に関して」「造形技法に関して」「道具・素材の扱い方に関して」の4つのカテゴリーに区分した(表3)。

7. 考 察

7-1. ①自身の造形に関する意識

図1より、幼少期から造形表現に対して肯定的な感情をもっている保育者は、そのまま肯定感を持ち続けていることが推察された。造形に関して、「大好き」と回答した人数は、幼少期と現在で変化は見られないが、「まあまあ好き」と回答した人数は5%(3名)増加し、「嫌い」「好きではない」と回答した人数は、合計で15%(9名)減少している。

これは、畠山(2018)⁴⁾の「感情曲線」の調査における「大学での授業が感情回復の大きな機会

表3. 学生時代に身につけておきたかった事項

カテゴリー	記述内容
自身の造形技術に関して (3名)	・フリーハンドで、イメージしたものを描く力。 ・色々な技法遊びと、自身がその楽しさを知る経験。 ・自身が実践で経験を積んでおくと、もっと子どもたちに教えられたかと思う。特に季節に応じた造形を学べたらよかった。
保育技術や指導力に関して (4名)	・子どもたちへの指導法、活動の進め方など、実践を踏まえて行いたかった。 ・子どもたちに対する言葉かけの仕方や、発達に応じた表現方法。 ・子どもに対する指導方法。 ・自分が体験するだけでなく、それを指導する方法や楽しさを伝える術(ポイントやコツなど)をもっと勉強しておきたかった。
造形技法に関して (4名)	・いろいろな技法をもっと学んでおいたら良かった。 ・絵具を用いたさまざまな技法。 ・子どもができる(年齢に応じた)技法を使つての造形活動。 ・事前準備があまり必要でなく、子ども自身で簡単に作れて遊べるものを学んでおきたかった。
道具・素材の扱い方に関して (6名)	・表現したいものによつての画材の選び方(パステル、水彩絵の具、アクリル絵の具など)。画材の特徴を知っておけば、もっと活動が広がったと思う。 ・道具の幅を広げておきたかった。例えば、段ボールなど筆以外の物でも絵が描けたりすること。 ・毛糸やプリンカップなど、いろいろな素材を使った遊び。色の使い方。 ・道具の使い方。いろいろな表現方法と、その応用など。 ・様々な材料を用いたおもちゃ作り。 ・廃材を用いた遊びを豊富に学んでおきたかった。

になっている」こと、もしくは、保育者になってから造形に対して肯定的な感情回復の機会があったことを示す結果である。

7-2. ②幼児の造形活動に関する意識

造形活動に対して、現在、肯定的な感情を持っている保育者は52%（32名）であるが、「幼児の造形活動計画」については「大好き」「まあまあ好き」と回答した保育者は46%（29名）であり、造形活動に対して肯定的な感情を持つ保育者の数から減少する結果となった。また、13%（8名）の保育者は、造形活動の計画に対して否定的な感情を抱いており、中には「自分は製作が大好きだが、子どもの造形活動は自分がさせたいだけではなく、発達も踏まえながら計画しないといけないところが難しい」という記述も見られた。

保育者の仕事としての造形には、「幼児の造形活動の計画・援助」「室内装飾や活動の小道具等を作成する保育者自身の製作活動」の2つの側面がある。自身のイメージを形にしたり、作業として製作を行うことは好きだが、幼児の活動を計画したり、準備したりすることは苦手であるという保育者が存在することが推測された。

幼児の造形活動計画に肯定的な感情（「大好き」「まあまあ好き」）を持っている保育者は、自由記述の回答理由から「子どもの発想が面白い」「子どもの楽しむ姿を見ることが好き」「子どもの様々な発想を見ることが楽しみ」など、幼児から出てくる表現を面白がったり、楽しみにしたりしながら計画を立てていることがうかがえた（表1）。

一方、幼児の造形活動の計画に否定的な感情（「嫌い」「好きではない」）を持っている保育者は、①における「自身の造形活動に対する意識」も否定的な回答を選択しており、自由記述では、「アイデアが浮かばない」「専門的な知識がない」「発達を踏まえながら計画することが難しい」ことを理由として記述している（表1）。保育者自身の造形に対する「嫌い」「好きではない」感情は、幼児の造形活動を計画することを困難にしていることが推察された。

7-3. ③幼児の造形計画・内容

『幼児の造形活動で計画しやすい活動（図3）』として上位に挙げられた活動において、活動に使用する標準的な道具・素材は、上位から順に＜クレヨン・クレパス・画用紙＞＜廃材＞＜紙・のり・はさみ＞＜絵具と画用紙＞＜シール＞＜折り紙＞＜マーカーと画用紙＞＜スタンプ＞＜油粘土＞＜粘土や砂など＞と、幼児の生活の中で身近にあり、比較的保育者が準備のしやすいものである。幼児の造形活動の計画において、使用する道具や素材の準備の容易さは、活動を決定する大きな要因の一つであると考えられた。

一方、『幼児の造形活動で計画することが難しい活動（図4）』として挙げられた活動では、幼児の造形活動として取り組むことが難しい理由として以下の4つが挙げられた。

- ④自身の体験不足や知識不足
- ⑤保育時間や園環境の問題
- ⑥素材や用具の扱い方が難しい
- ⑦保育者自身の好み

「⑤保育時間や園環境の問題」の解決策については、のびのび造形活動ができる日や場所を設けたり、行事の機会を活用して造形活動を行ったりするなど、園全体での表現に関する取り組みが求められる。「④自身の体験不足や知識不足」、及び「⑥素材や用具の扱い方」に関しては、保育者一人一人の専門性の向上によって解消できる要因であると考えられる。これは、園内研修や、園外研修などのスキルアップ研修で培うことができると考えられる。「⑦保育者自身の好み」は、幼児の体験の平等性を考えるうえで払拭する必要がある要因である。クラス担任の嗜好によって、幼児の体験の幅が狭くなることが無いよう、配慮する取り組みが必要である。

「絵具での描画」「廃材での工作」「切り絵・貼り絵」は、『幼児の造形活動として計画しやすい活動』の上位ではあるが、『計画することが難しい活動』の中にも含まれる結果となった。これは、保育者個人の好みや、造形に関する知識・技術の差から生じる結果であると推測された。保育者が造形活動の計画に関して難しいと感じている要因

を減少させ、幼児の豊かな体験の機会を保障することが求められる。

『幼児の造形活動計画で気をつけていること』については、保育者が「楽しんで製作できる」「季節行事に即している」「年齢に合っている」ことを基本に造形活動を計画していることが読み取れる。『幼稚園教育要領』『領域環境 内容（３）季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。』『（６）日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。』¹⁾の観点からも、保育者が季節行事を意識しながら造形活動を行うことで、幼児が季節の移り変わりを感じたり、年中行事を体験したりする機会となっていることがうかがえた。

7-4. ④造形指導で困難だと感じる事項

造形指導において困難だと感じることで、
「発達差・個人差による要因」が挙げられた。発達の領域は、身体、運動、認知、情緒、自己などの領域があり、これらの領域が相互に影響を及ぼし合い、乳幼児期は、身体的にも精神的にも生涯の中で胎児期を除いて発達が最も著しい時期であるとされる¹⁰⁾。領域表現では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」¹⁾ことが重要であるため、出来上がった作品の見栄えではなく、製作過程での個々の思考や工夫などのプロセスが重要となる。そのためには、発達差や個人差を含めた個々への援助や、環境構成の工夫が求められるといえる。しかし、造形活動を安全に行うためには、幼児が初めて扱う道具の使い方や、製作の手順を一齐にクラスの子どもたちに伝えることが必要な場面もあり、その手段のガイドが無いことが造形活動の指導困難へと繋がっていると考えられた。

「活動内容や指導法に関する要因」としては「絵の具の指導」が挙げられた。これは、上記の一齐指導の難しさにも関連した要因であると考えられる。準備片付けを含め、どのように進めたら良いのか分からないという回答は、横田ら（2020）⁷⁾による若手保育者の造形に関する調査の課題とし

て挙げられた「絵画制作に関する手順・方法」に共通する結果であり、「絵具の指導」に困難を感じている保育者が一定数いることが推察された。

「自身の保育技術による要因」では、「アイデアが浮かばない」「活動に（子どもの発達にとって）どのような意味があるのか分からない」等の記述があった。幼児教育の基本となる『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』¹⁾には、具体的な幼児の活動は示されておらず、保育者は、日常の子どもの姿から、各領域に示されるねらいの趣旨に基づいて適切な内容を工夫し、日々の保育を行うことが求められる。自身の考えた活動が、ねらい及び内容に沿った活動であるかという保育者自身の間が解消されないまま、次の活動計画をたてて実施するという実情が、造形活動を困難に感じさせる要因となっていることが推測された。

「保育環境による要因」においては、「時間の制限」「準備・片付け」が造形活動を困難に感じさせている要因であることが示された。クラスで造形活動を実施するには、事前準備に時間のかかる活動や、片付けに時間を要する活動は、他の業務との兼ね合いを考えると敬遠されがちである。子どもたちの豊かな表現活動を支え、体験の幅を広げるためには、複数の保育者が、活動の前後を通して準備片付けに関わるような体制が必要であると考えられた。

7-5. ⑤学生時に身につけておきたかったスキル

保育者の大多数は、保育者養成校で学び、現場でその専門性を発揮しながら保育を行う。しかし、現場に出て初めて必要になる知識・技術もある。カテゴリーとして区分された「自身の造形技術に関して」「造形技法に関して」「道具・素材の扱い方に関して」「保育技術や指導力に関して」は、横田ら（2020）⁷⁾の、若手保育者が抱える造形活動に対する課題として挙げられた「造形に関する知識・技能」「子どもとの関わり」に類似している。現場の保育者は、自身の造形技術の向上及び、造形に関する様々な知識を身につけるとともに、保育技術や指導力について専門性を高めたいと考

えていることが示された。

保育者養成校の造形授業では、幼児造形で扱われる技法あそびや様々な素材を用いた製作が取り上げられるが、保育現場では、それ以上にレパトリーの豊富さが求められるであろう。保育者には、一つの造形遊びから他の活動へ展開する発想力や、子どもの興味に合わせた活動の応用力が求められるといえる。また、道具や素材の扱い方や特性を知することは活動の展開に必要不可欠であり、経験を重ねる中で得られる知識や保育者研修での学びを自身の専門性につなげ、子どもの体験の幅をひろげ援助することが求められる。

実際、子どもへの関りや指導に関して、養成校の授業で実践することは困難である。しかし、言葉かけの仕方や、援助のポイントなどを模擬保育などの実践を通して学ぶ経験は必要であると考えられる。自身の製作活動は好きだが、幼児の活動計画は苦手という保育者が、幼児の造形活動の面白さに気付き表現を支える援助ができるような授業を実践していくことが、保育者養成校の役割であると考えられた。

8. ま と め

本稿では、保育者が幼児の造形活動において困難だと感じる内容、またはその要因について調査することで、保育者の造形活動に関する指導困難事項を明らかにすることを目的とした。また、保育者自身の造形に対する苦手意識が、幼児の活動に及ぼす影響について考察した。得られた結果を以下に示す。

- (1) 保育者の造形に関する意識と、幼児の造形活動計画に関する意識調査の結果から、保育者自身の造形に対する「嫌い」「好きではない」感情は、幼児の造形活動を計画することを困難にしていることが推察された。
- (2) 自身のイメージを形にしたり、製作を行うことは好きだが、幼児の造形活動を計画したり、準備したりすることは苦手である保育者が存在することがアンケート結果より示された。
- (3) 保育者が幼児の造形活動の指導において困

難を感じる要因として、

- ①発達差や個人差による要因
- ②活動内容や指導法による要因
- ③自身の保育技術による要因
- ④保育環境による要因

の4要因が、アンケート記述より考えられた。特に、「発達差」「個人差」が指導の難しさを感じる要因になっており、活動内容としては「絵具の指導」が困難であると感じる保育者が一定数存在することが示された。また、準備片付けなどを含む時間の余裕や人員の不足が活動を困難にする要因であることが考えられた。

- (4) 保育者にとって、「計画が容易な造形活動」と「計画が困難な造形活動」があることが示された。使用する道具や素材の準備の容易さは、造形活動の内容を決定する要因の一つであると考えられた。

造形活動の計画を困難にさせる理由として、以下の4つが考えられた。

- ①自身の体験不足や知識不足
- ②保育時間や園環境の問題
- ③素材や用具の扱い方が難しい
- ④保育者自身の好み

- (5) 保育者は、自身の造形技術の向上及び、造形に関する様々な知識を身につけるとともに、保育技術や指導力について専門性を高めたいと考えていることが、アンケート記述より示された。

幼児期の造形活動は、自分自身を表現することであり、瑞々しい感性を培い心豊かな生活を創造していく態度など「生きる力」の基礎となるものである。保育者の造形活動に関する肯定的な感情と知識・技術によって造形活動は発展し、幼児の体験の幅を広げることとなる。保育者の造形活動に関する指導困難事項を明らかにし、その要因を探ることで、保育者養成校の授業で育むべき力について考察することができた。この結果を今後の造形授業に活かしていきたい。

また、現職の保育者の方が知識・技術を高めるためには、保育者研修等がその役割を果たす場と

なると考える。本稿の造形に関する意識調査を基に、保育者の課題解消にむけた保育者研修について研究を深めていきたい。

註

- 1) 『平成29年告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(2017)チャイルド本社, pp 7 - 8, 20-21, 41-42, 80-81, 87-88
- 2) 佐善圭 (2010)「保育者養成校における造形教育の新たな授業試案とその成果－切り紙、染め紙を使用した造形指導の実践的研究－」『岡崎女子短期大学研究紀要』43, pp31-40
- 3) 降旗孝 (2016)「図画工作・美術への〔苦手意識〕解消の試みと成果－目指すべき造形美術教育を実現させるために－」『山形大学紀要 教育学科』16, (3) p.193
- 4) 畠山智宏 (2018)「保育者・小学校教員として成長する過程での造形表現活動に対する意識の変遷－感情曲線による検討－」『大学美術研究学会 美術教育学研究』50, pp.289-291
- 5) 山中慶子 (2020)「保育学生の造形表現における苦手意識克服のための授業実践－造形表現に関する意識調査からの考察を通して－」『長崎女子短期大学紀要』46, pp.117-132
- 6) 中島法晃 (2019)「造形指導に不安を抱える保育者にとって有効な表現素材と活用のあり方～保育者研修のワークショップ事例を通して～」『岐阜女子大学紀要』pp.61-65
- 7) 横田典子・米窪洋介・野田美樹・佐善圭(2020)「若手保育者が抱える造形活動に対する課題意識－保育経験2、3年目の保育者を対象とした講習における質問紙調査からの検討－」『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要』53, pp.43-50
- 8) 島田由紀子 (2016)「造形活動に関する保育者の意識－保育系学生との比較検討－」『和洋女子大学紀要』56, pp.85-97
- 9) 村田夕紀 (2010)「幼児造形指導の試み－豊かな表現を引き出すために－」『四天王寺大学紀要』50, pp.229-236
- 10) 相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子 (2018)『保育の心理学 第3版子どもたちの輝く未来のために』ナカニシヤ出版, pp125-129

資料 1. 造形表現に関するアンケート

1. 小さいころから図工・美術は好きでしたか？	大好き ・ まあまあ好き ・ 普通 ・ 好きではない・ 嫌い
2. 現在、自身の造形に関する作業は好きですか？	大好き ・ まあまあ好き ・ 普通 ・ 好きではない・ 嫌い
3. 幼児の造形活動の計画をするのは好きですか？	大好き ・ まあまあ好き ・ 普通 ・ 好きではない・ 嫌い 理由：
4. 幼児の造形活動で実施しやすい内容に○を。 実施することが困難な活動に△を付けてください。 (複数回答可) 【△の理由はなぜですか】 ()	クレパスでの描画 ・ 絵の具での描画 ・ 色水あそび ・ マーカーを使った描画 ・ 色紙など貼り絵による表現 ・ 版画 ・ スタンプによる造形 ・ 技法遊び (マーブリング・ドリッピング・にじみ絵・スクラッチなど) ・ 砂や土を使った造形あそび ・ 油粘土による表現・ 紙粘土による表現 ・ 土粘土による表現 ・ 紙コップや紙皿での工作 ・ 折り紙 ・ 切り絵切り紙 ・ シール貼り ・ 箱や牛乳パックを使った工作 ・ 感触遊び ・ ごっこ遊びの小道具作り ・ 動くおもちゃ ・ 衣装作り ・ かぶりもの制作 (お面や帽子) ・ 光の造形や影絵 ・ 共同制作 (基地やお家) ・ 遊びの絵 (絵の具遊びなど) ・ 構成遊びの絵 (シールや色紙を画面に貼ったりする) ・ 生活の絵 (観察など日常を題材にする) ・ 思い出の絵 (行事などを思い出しながら描く) ・ 空想や想像の絵 (お話や絵本から)
5. 子どもの製作を計画するうえで気を付けていること、参考にしていることは何ですか。(上位3つまで○をつけてください)	楽しんで製作できる ・ 行程が簡単である ・ 皆が一斉に取り組める ・ 季節の行事に即している ・ 初めて経験する活動である ・ 年齢にあっている ・ 掲示の見栄えが良い ・ 保護者が見て子の成長を感じられる ・ 子どもの今の興味関心にあっている ・ 材料がすぐ用意出来る ・ 準備片付けが自分で出来る ・ 保育雑誌を参考にする ・ (他)
6. 自分自身が学生時代に、造形表現に関してもっと学んでおきたかった事柄はありますか？あれば教えてください。	
7. 現在、造形活動を計画・指導するうえで困難だと感じることはありますか。また、その要因は何だと思えますか。	

●勤務先

- ☐ 幼稚園勤務 (担任) ☐ 幼稚園勤務 (補助) ☐ 保育園勤務 (担任) ☐ 保育園勤務 (補助)
☐ 認定こども園勤務 (担任) ☐ 認定こども園勤務 (補助) ☐ 児童施設勤務 ☐ 管理職
☐ その他 ()

●年代 ☐ 20 代～ ☐ 30 代～ ☐ 40 代～ ☐ 50 代～ ☐ 60 代～

たくさんの質問にご協力いただきありがとうございました。今後の保育者育成の為に参考にさせていただきます。